



新政会
安楽 良 幸

防災ハザードマップの更新および配布について

【質問】 令和元年10月中旬に関東・東北地方を来襲した台風19号の豪雨により、71の河川が氾濫し、140か所の堤防が決壊して、多くの人命が失われた。被災地では、現在も復旧作業に追われている。本市においても、一級河川である石狩川、空知川が流れており、台風19号並みの豪雨が発生した場合は、内水および堤防の越水または決壊などにより、大きな被害が予想される。

そのため、平成18年8月に市内全戸を対象に防災ハザードマップを配布しているが、約13年が経過しており、27年に見直された国の防災ハザードマップとの整合性もとれていない。

また、転居や防災意識の希薄などにより、紛失している家庭も多いと聞いている。現在、本市で行っている避難所の見直しと併せて、

防災ハザードマップを最新の状態に更新して配布し、市民の安全確保に資するべきと思うが、市の考えを伺う。

【答弁】 現在の洪水ハザードマップは、平成18年に作成したものであり、27年の水防法改正を踏まえ、国が公表した想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域と浸水深を示したものではありません。

近年、日本各地で発生している豪雨が滝川市で発生した場合、どの地域がどれぐらい水にかかるのか、逃げ遅れると命に関わるのかの災害リスクを市民に知っていたくためにも、洪水ハザードマップを見直すことが必要だと考えています。

また、現在、市内の避難所の見直しを行っているところであり、これが決定したら、洪水ハザードマップの更新に着手できるよう検討します。

【質問】 市民の命を守るため、遅くとも来年度の出水期までに配布すべきと思うが、市の考えを伺う。

【答弁】 急ぐべき問題であると考え、全体の中での優先課題の上位として取り扱いたいと思います。



会派清新
東 元 勝 己

災害避難所運営について

【質問】 避難所における食物アレルギー疾患を有する被災者への対応について伺う。

【答弁】 平成30年の北海道胆振東部地震による経験を踏まえて、アレルギー対応の食料備蓄の必要性を考慮し、令和元年度には、食品アレルギー特定25品目を含まないアレルギー化米を緊急対応として600食（味付きご飯4種類）を備蓄しました。また、27年に策定した滝川市備蓄計画を見直し、アレルギー疾患を有する被災者への対応については、アレルギー化米を中心に食料対応を行うこととし、避難所運営にもアレルギー疾患の方に配慮して対応します。

SNSによる犯罪について

【質問】 SNSを悪用した犯罪に対する学校での未然防止対策について伺う。

【答弁】 市教育委員会が、令和元年

7月末に実施した調査において、自分専用のスマートフォンを所有している割合は、小学校高学年で約35%、中学生で約63%と判明しています。この結果を踏まえスマートフォンを所有している児童生徒のほとんどがコミュニケーション機能がのほかに、インターネットが利用可能な状態にあり、昨今発生している事件に巻き込まれる危険な可能性も否定できません。その対応のため各学校では、特別活動や道徳科、技術・家庭科などでコミュニケーション手段としてのスマートフォンをはじめ、情報機器の適切な使用方法について児童生徒に考えさせる授業を年に数回行っています。その際、市教育委員会が作成した情報モラル学習参考教材を活用し、個人情報やプライバシーを守るインターネットの使い方などについて考えさせる授業を行っています。

また、保護者に対しては滝川市PTA連合会研究大会でインターネットの危険性に対する講話を、各中学校の新生説明会においては外部講師を招き、情報モラルに係る取り組みを充実させています。